

畜産業における激突され災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	11~12	育成牛舎において除糞作業を行い、作業終了後、牛を通行止めにしていただけをはずしてまとめていたとき、後方より牛が接近し、柵側に強く押されたため、鉄柵で胸を強打した。	73	1~9
1	7~8	地下道通路において、調教終了後の帰厩の際、護馬が突然走りだし、その近くにいる他馬に左足首を蹴られ、同部を負傷した。	35	10~29
1	15~16	馬房内において、馬房内清掃中、該馬が突然暴れて追突し、左鎖骨部分を強打し負傷した。	40	1~9
1	7~8	牛の出荷作業中にロープを引っ張って移動させようとした際、嫌がった牛が右側から当たって来た為、反動で反対側の柵に衝突した。	55	10~29
1	16~17	トラックで運んできた牛を牧場内で降ろす作業をしている際、牛が暴れ出してしまい、被災労働者の右肩にぶつかって負傷した。	61	1~9
2	15~16	馬房内において仔馬の手入れ中に母馬が威嚇してきて左耳を?まれた。耳上部表面2cm、耳裏4cmの裂傷を負った。	19	100~299
2	14~15	競馬場自厩舎洗い場で2才馬を洗い場にいれる際、同馬が足を滑らせ転倒し、立ち上がる時に同馬の右前足で左足を踏まれた。その後も痛みを我慢しながらも治ると思い仕事を続けていたが馬のレントゲン時に一緒に検査してもらったところ骨折していたので後日に受診した。	36	1~9

2	15~16	放牧地にいる繁殖馬を収牧する為に、放牧地の中に入って行ったところ、後から走ってきた繁殖馬が横を通り過ぎた時に、急に左足で顔面を蹴られた。	62	10 ~ 29
2	20~21	弊社牛舎内ロータリーパーラーにおいて業務中、暴れる牛に装着するキックガードを取り付けるため、一度後ろのポールに立て掛けた際にそのキックガードを牛が後ろ蹴りにしたので被災者の顔面に当たり負傷した。	38	50 ~ 99
2	9~10	繁殖豚舎で豚の交配中、雄豚が雌豚から離れた時、右側頭部に当たった。	30	—
2	10~11	馬房内で馬にハミを付けようとしたところ馬が突然向きを変えて左背中部分を蹴られた。馬の左側からハミを付けようとしたところ、馬が時計回りに向きを変えた為危険を感じ、とっさによけたつもりだったが、一瞬の出来事だったのでよけきれず蹴られた。	65	10 ~ 29
2	10~11	馬運動場において取扱馬の曳き運動中、該馬が目の前にいた物を物見して驚いた際に右胸部を蹴られ、同部を負傷した。	38	10 ~ 29
2	11~12	牧場内トラックコースにて、暴走している馬を止めようとした際、その馬に衝突された。	49	30 ~ 49
2	6~7	3号厩舎内の18馬房において、担当馬の馬糞を処理中に突然暴れだし、その時に左ひざを蹴られ負傷した。	67	1~ 9
2	10~11	自社農場内において、出産予定日の豚をストール舎から分娩舎へ移動作業中、豚が暴れ、豚のお尻で柵（高さ約80cm）に左手を押し付けられ負傷した。	39	1~ 9
3	8~9	自社農場で牛の出荷作業のため、牛をトラック荷台に載せる作業中、牛がトラック荷台から逃げようと向かってきたため体で阻止したところ、牛が頭で激突し突き飛ばされ、トラック荷台反対側の壁の鉄部分に腹部を強打し負傷した。	36	10 ~ 29
3	3~4	馬房内において取扱馬の運動準備中（装鞍中）、該馬に突然蹴られ、顔面を負傷した。	47	10 ~ 29

3	9~10	取扱馬の曳き運動中に該馬が突然暴れ、右脇腹を蹴られ、同部を負傷した。	39	10 ~ 29
3	13~14	育成舎のふん掃除を行っていた際、若雄豚の豚房を掃除していたところ、じゃれてきた若雄豚の牙で右ふくらはぎ内側に幅5~6cmの切り傷を負った。	54	50 ~ 99
4	11~ 12	馬の調教中、急に馬があばれて馬の首に右手首をぶつけて負傷右橈骨遠位端骨折をした。	33	1~ 9
4	15~ 16	放牧地で収牧中、仔馬がゲートに突っ込み、外れたゲートに巻き込まれて倒れ、頬・左手首・後頭部を負傷した。	39	30 ~ 49
4	6~7	事業主牛舎にて子牛の熱を測っていたところ、他の牛が暴れて右手首を蹴られて受傷した。	57	10 ~ 29
4	11~ 12	敷地内の鶏舎から2号鶏舎に鶏をラックに移しトラックで運ぶ移動作業中に、鶏が入ったラックをトラックの荷台からパワーゲートに乗せ卸ろし作業をしていた時、パワーゲート上でラックが動き出した為、その動きを押さえようとしたがラックの重さに耐えかねバランスを崩し、ラック共に転倒した。その際に右足がラックの下敷きになり、右足膝内側脛骨を負傷した。	57	30 ~ 49
4	16~ 17	馬洗場において取扱馬の手入作業中、該馬が突然立ち上がり、前脚が引き手に絡まった為、それを外そうとした際に該馬の下に巻き込まれ、後ろ脚で顔面・左胸部・頸部を踏まれ負傷した。	59	1~ 9
4	11~ 12	ロータリーバーラーで2回目の搾乳が終わり、牛舎に返す際、牛に近寄ったところ、右太ももあたりを牛に蹴られた。	40	100 ~ 299
4	7~8	牛舎にて仔牛にミルクをあげる作業中、小屋1マスに仔牛2頭が入っていたため、移動させようとしたところ、牛に足の甲を踏まれた。	46	50 ~

				99
4	7~8	馬運動場において曳き運動中、該馬が突然走りだし、該馬に右腕に突進され、右肩部を捻った。	50	10 ~ 29
5	9~10	場内の種付所にて、種付を行うための準備中に繁殖牡馬の後肢の後ろに、マットを置いた際に繁殖牡馬が左後肢で蹴り頭部を蹴られた。繁殖牡馬の足にはクッション性の靴を履かせていた事と、本人もヘルメットを被っていた為、外傷はなかったが頸椎を損傷した。	62	1~ 9
5	3~4	自厩舎内、馬房内において飼葉付作業中、該馬がくるっと廻って突然蹴ってきたため、胸部（肋骨骨折）を負傷した。	55	10 ~ 29
5	16~17	農場にてオス豚を移動させていたところ、豚舎の通路で豚が激しく転倒し、右足の太ももにぶつかってきて、豚の歯（キバ）で太ももを切った。	65	10 ~ 29
6	6~7	親馬の後肢手入れ中、馬が少し嫌がる素振りを見せ、後肢を振り上げた。その際、馬の後肢蹄が太股内側に接触した。	21	50 ~ 99
6	19~20	場内装鞍所において、11レースに出走する馬に馬具を装着していたところ、思いがけず左前足で左足親指付近を踏まれ負傷した。	31	1~ 9
6	8~9	リパックエリアで、機械がプラスチックに入っている卵を吸盤で吸い上げて、ダンボール梱包用のトレイに移す際、プラスチックトレイに正確に入っていない状態で機械が停止したため、トレイの卵を除くために手を入れた際、機械が非常停止せず、頭部をロボットヘッドに挟まれた。その際、左頭部、右の顔から首にかけて打撲し、歯（左上糸切り歯）も欠けた。	38	30 ~ 49
7	16~17	馬房の中で、馬を捕まえようとした時に、馬が嫌がり暴れて右太もも当たりを蹴られて負傷した。	46	10 ~ 29

7	18~19	牛を別の牛舎へ移すため、間違わないように牛の後足の足首に目印のためのテープを巻く作業をしていた。先に右足首にテープを巻きおえて、次に左足首に巻こうとしてかがんだ時に、牛があばれて左肩を踏まれた。	40	10 ~ 29
7	15~16	厩舎前において馬運車から降ろす際、該馬が物見し飛び降りその際左足第4・5指に着地され、同部を負傷した。負傷当日より痛さがあり我慢していたが翌日腫れが広がっているため、救護室にて診てもらい処置してもらい、骨折していると言われ湿布を貼って我慢した。	30	10 ~ 29
7	1~2	牛〔350kg〕をパドックからパドックへ移動するため、車に乗せようと後から追っていたとき、牛に蹴られ、右足脛を打撲した。休業見込み3週間	38	10 ~ 29
7	10~11	牛舎内のパーラーで牛の検査作業中に、パーラーから勢いよく出てきた牛と柵の間に右腕を挟まれ骨折した。	21	10 ~ 29
7	8~9	馬に騎乗中、前の馬が人馬転し、倒れてきた馬が左膝付近にぶつかった。	37	100 ~ 299
7	15~16	体重計測の為親子で馬を引いていたところ強風に仔馬が驚き走り出した為、親が急に暴れ頭部と胸部を後肢で蹴られる。	48	30 ~ 49
9	8~9	哺育舎から育成舎への仔牛を移動させる為に仔牛7頭を6人で追っていたところ、牛に蹴られて転び、転んだところを牛に踏まれこの災害となった。	38	1~ 9
9	9~10	牧場にて右膝をついて踵を浮かせた状態で牛を削蹄中、牛が倒れてきたので逃げようと腰を浮かせた際に、右ふくらはぎから踵に牛が倒れ下敷きになった。	47	—
9	8~9	出向先の牧場にて放牧地へ牛を追いに行くため、オートバイで牛を後ろから追っていた際に、タイヤが滑り転倒した。その時に転倒を防ごうと足を踏ん張ったが、オートバイが倒れてきて、左足のすねから足首の辺りを強打した。負傷当日は痛みも腫れもすぐに治まったので、病院へは行かず通常通り仕事をしていた。その	41	1~ 9

		後、しびれや痛みを感じるようになり、状態が悪化し、受診した結果、左足首の筋肉剥離と診断され、現在、固定用装具を装着している。		
9	13～ 14	出走馬に騎乗、発走後コーナー付近において同馬が馬体故障を起こして転倒し、落馬した際に同馬に一瞬乗られて負傷した。	21	1～ 9
9	15～ 16	自厩舎内、馬房内において糞拾い作業中、該馬が物音に暴れ尻を向けて蹴ってきたため、右足（右股関節部）を負傷した。	59	10 ～ 29
9	5～6	調教前の乗り運動中に雨が降ってきたので、鞍に合羽を付けるために洗い場に馬を入れ、降りた時にホースが足に絡み転倒し、その音に馬が驚いて暴れ右足のふくらはぎを踏まれ負傷した。	55	1～ 9
10	6～7	馬が急に暴れ、左膝を蹴られた。その際、脱臼してしまった。	41	100 ～ 299
10	8～9	就業場所牧場の牛舎で搾乳を終えた牛の移動をしていた。牛舎内で牛の誘導をしていたところ、急に牛が団体で走り出したため、避けきれずに牛舎のH型鋼と牛との間に体が挟まれてしまい負傷した。	48	1～ 9
10	9～ 10	一歳馬の調教中、坂道の入口付近で被災者を乗せた馬を中央にして、3頭併せて調教していたところ、右側にいた馬が暴れて、その蹴り上げた脚が被災者の右膝に当たった。	41	10 ～ 29
10	16～ 17	馬房内で当才馬の蹄の裏掘り作業をしていたところ、左後蹄の裏掘りを終えた時に後肢で左頬を蹴られ頬骨骨折。	58	30 ～ 49
10	3～4	動場において曳き運動中（左側）、該馬が突然暴れ踏まれ、右足（全体特に小指付け根を強く踏んだ）を負傷した。	59	10 ～ 29
10	8～9	牛の出荷作業中、小屋の中にいた4頭のうちの1頭が動いているうちに当たってきて、柵と牛に挟まってしまい負傷した。	68	100 ～

				299
11	15～ 16	放牧地で繁殖牝馬のひき運動中、馬が暴れぶつかって来て、本人が倒れ右肩を負傷した。	65	30 ～ 49
11	14～ 15	集牧して厩舎に入れる為に手綱を持って歩いていたところ、馬が暴れ自分の後ろ側に回って後ろ脚を蹴り上げた為、背中に後脚が当たり背中を負傷した。	31	10 ～ 29
11	6～7	朝の調教の為、装鞍所において馬（牡、2歳馬）の調教を始めようと馬場に入ろうとしたところ、同馬が暴れて馬場管理棟の柱にぶつかった際に左足を負傷した。	35	1～ 9
11	9～ 10	工場仕上げ場で、被災者が一人で鉄骨加工品仕上げ作業を行っている最中に発生した。二段に重なっていた鉄骨加工品の上段の加工品を手前におろす際に、手で持ち上げたが重さに耐えきれず急いでおろした為、下段の加工品とおろした加工品の間に指を挟んでしまった。鉄骨加工品、H形鋼200×175×7/11t×990L（43kg）	35	1～ 9
11	11～ 12	ホテル調理場内にて、デシャップ台（完成した料理を配膳前に一時的に置く台）付近の段差に躓き転倒した。その際に最初にデシャップ台にぶつかり右顔面を打ちつけてしまった。前日に調理場内の床面清掃を行い台が通常時に比べ位置が違っており、そのために、感覚が変わって、躓いてしまったようである。翌日になっても痛みが引かなかったために受診した。その後、1週間後に受診し、翌月は通常勤務を続けたが、右手に痺れが出るなど、違和感を感じ、翌々月に受診し痛みが続いていることを伝えた。	34	1～ 9
11	14～ 15	第15回競馬4日目第7レース発送後、厩舎に帰る坂道付近で、発送予定の馬とすれ違った際、興奮して立ち上がった時に転んで、ヘルメットを蹴られた時に負傷した。	50	1～ 9
11	10～ 11	養豚場の糞尿処理場において、糞尿を分離する水切板が固形分を収集する際に移動した。移動を元に戻す為に二人で作業にあたった。フックを付けたロープを取り付けて水切板を吊り上げて移動しようとした。しかし、水切板が自重等の影響で吊り上がらず、水切板からフックが外れ、顔面に当たり左眼に受傷した。	58	1～ 9

11	14~ 15	産廃の入った産廃箱をトラックにパワーゲートを使用し積み込もうとした時に、ストッパーを立てていたがゲートから落ちて来たので箱を避けようとしたが、右手の手の平を箱の角に引っ掛けて負傷した。	41	10 ~ 29
12	11~12	豚舎内にて豚を移動する作業をしているときに、豚の通路で豚と壁に足をぶつけた。	31	1~ 9
12	14~15	乾乳牛舎内の掃除をする為、牛を外に移動作業中、牛に正面からぶつかられた様で、その後、牛舎内の通路迄逃げて来たと思われ、そこで倒れている被災者を他の従業員が発見した。本人から、牛にやられたと聞き、その後、意識がなくなり、搬送先の病院で死亡が確認された。	61	10 ~ 29
12	14~15	牛舎にて、1人で牛の治療をしていて、ワクチン接種をした際、牛が驚いて体あたりするように倒れてきて、逃げきれず、左足が牛と地面の間に挟まれて左膝を負傷したものである。	29	1~ 9
12	15~16	競走馬スイミングプールの馬プール出入口付近において、該馬の運動終了後、該馬が突然ぶつかってきた際、胸部、右脇腹を蹴られ負傷した。	43	10 ~ 29
12	15~16	厩舎内で競走馬の馬体チェックをしているとき、急に馬が暴れたので御そうとしたところ、馬の左後脚で右膝内側を蹴られた。しばらく様子を見たが痛みがあり、腫れていて動かすことができないので受診した。	33	50 ~ 99
12	21~22	牛舎内にて、乳牛に注射を打っているとき（ビタミン剤）、乳牛（乾乳中）の首を保定していたが、真後ろに立ってしまったため、牛に後ろ足で蹴られた。	31	1~ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html